

道德教育地域教材

統十勝野

指導資料編

もくじ

本指導資料の活用について、「特別の教科 道徳」の特質を踏まえた授業づくりのポイント1 …… 2

「特別の教科 道徳」の特質を踏まえた授業づくりのポイント2、指導資料の見方 …… 3

〈小学校低学年用〉

一 なかよくして、たすけあおう【友情 信頼 B (9)】モチャロクと …… 4

じゅうたろう

〈小学校中学年用〉

二 自然を大切にすることを【自然愛護 D (19)】林 豊洲 …… 5

〈小学校高学年用〉

三 人間として生きる喜びを感じて【よりよく生きる喜びD (22)】関 寛斎 …… 6

〈中学校用〉

四 生きることとは【よりよく生きる喜びD (22)】神田 日勝 …… 7

〔本指導資料の活用方法について〕

本指導資料は、十勝に視点を当てた道徳地域教材「続十勝野（ぞく とかちの）」4編分の学習指導案形式の内容で構成しています。なお、「続十勝野」において扱っている内容項目は、授業づくりの一例であり、各学校の実態等を踏まえた内容項目の設定も想定しています。

各学校におきましては、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができるよう、本指導資料を道徳科の授業づくりや、校内研修の資料等として御活用いただきますようよろしくお願いいたします。

「特別の教科 道徳」の特質を踏まえた 授業づくりのポイント1

明確な指導観＝価値観＋児童生徒観＋教材観

授業づくりに当たり、構想の筋道である「価値観→児童・生徒観→教材観」が明確な指導観を一貫してもつことが大切です。

明確な指導観を一貫してもつ
授業づくりの道筋である

授業者の 価値観

① 学習指導要領の内容項目を踏まえた上で、特に指導が必要な道徳的価値を明らかにします。

児童 生徒観

② 本時で取り扱う内容項目に関わって、学校教育全体を通じて指導してきたことや、指導による子どもたちのよさや課題、本時において特に考えを深めさせる道徳的価値を明らかにします。

教材観

③ 価値観や児童・生徒観を踏まえ、道徳的価値について考えを深めさせるための発問の意図や、指導方法の工夫など、教材活用の工夫点を明らかにします。

「特別の教科 道徳」の特質を踏まえた 授業づくりのポイント2

「特別の教科 道徳」の目標を踏まえた学習指導過程

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める」学習指導過程を構築することが大切です。

道徳的諸価値について理解する	①価値理解・人間理解・他者理解といった道徳的諸価値について理解するための発問を意図的・計画的に位置付けます。
自己を見つめる	②教材の人物に共感し、「自分が同じ場面状況に置かれたらどう考えるか」など、道徳的価値について、自分との関わりで考え、自己理解を深めます。
物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える	③多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり、協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から理解し、主体的に学習に取り組むことができますようにします。
自己の(人間としての)生き方についての考えを深める	④性急に態度の変化を押し付けることなく、一人一人が、自分の生き方について考えを深められるようにします。

指導資料の見方

各教材の構成や、各学年の発達段階を踏まえた指導のポイントを示しています。

各教材の特質を押さえた発問や、児童生徒が自分との関わりで考えることにつながる発問を位置付けています。

1 十勝開拓の夜明けに續げられたあつい友情 モチャロクとじゅうたろう													
1 主題	「なかくしてたすけあう」【日-9 友情 信頼】												
2 ねらい	モチャロクとじゅうたろうが互いの存在を認め、支え合って交流を深めた理由について考えることを通して、身近にいる友達と仲よくし、助け合う態度を育てる。												
3 教材について(教材の生かし方や人物像)	<p>本教材は、アイヌの神皇モチャロクが、十勝開拓の先驅となった結太郎太郎に北海道で生活する知恵や技術を教え、面倒を見るとともに、結太郎もモチャロクをはじめとするアイヌの人々への感謝と尊敬の念を抱くなど、両者が生涯に渡って支え合って生きてきた姿を通して、身近にいる友達と一緒に仲よく生活したり、友達が困っているときに助け合ったりしようとする態度を育むことをねらっています。</p> <p>前半では、詳細絵巻をした結太郎を仲間として受け入れたモチャロクが、親身になって結太郎の生活を支え、交流を深めた2人がお互いに心を通わせる姿について触れています。</p> <p>後半では、結太郎の仲間が起きた火災を広い心で許すモチャロクの姿と、アイヌの人々の困難に自らを顧みず、救助に当たった結太郎の姿について示されています。</p> <p>指導に当たっては、自分と異なる他者を認め、信頼し、助け合う2人の友情に着目するとともに、自身との関わりにおいて、友達と一緒に協力したり、助け合ったりしてよかったことを考えさせながら、友達と仲よくすることのよさについて考えを深めていくことが大切です。</p>												
4 展開例	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>中心の発問・予想される子どもの反応</th> <th>指導上の留意点(教師側)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「友達」という言葉から、思い浮かぶイメージについて話し合う。 「友達」はあなたにどんなことをしてくれる人かな? ・優しくしてくれる人、一緒に遊んでくれる人、楽しい気持ちにさせてくれる人、心配してくれる人。 今日の授業では「友達と仲よくすることのよさ」を考えたいと思います。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「お互い」する道徳的価値への方向付けをするときに児童の一面的な見方を引き出す。 児童から挙げたアイヌの事例を扱った後、ペアで話し合うように誘導する。 </td> </tr> <tr> <td>展開</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 教材を読み、話し合う。 これらを読む中に、モチャロクという人とじゅうたろうという人が出てきます。2人がどのように仲よくしていったのかを考えながら読み進めよう。 モチャロクはどのような気持ちでじゅうたろうのさびしい心と生活を助けたのでしょうか。 一人ぼっちでかわいそうだな、食べる物は十分にあるのかな、アイヌの人たちの生活がどんなか、なぜモチャロクの家だけが残っていたのでしょうか。 じゅうたろうが、悪い人ではないと知っていたか。 じゅうたろうが来ることを待っていたのではない。 結太郎から許しをあげた理由を考えたのではない。 あなたがモチャロクやじゅうたろうのような気持ちで「友達のために何かをあげたい」と思うことはありますか。またそれはどのような時ですか。 困っている友達を見て、何とかしてあげたいと思う時、友達と力を合わせて、がんばりたいと思う時。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> モチャロクとじゅうたろうのそれぞれの行動を多面的・多角的に考えている。 子ども同士の関わりを重視し、友情が生まれるよう配慮する。 困っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 支え合っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 友誼について多面的・多角的に考えさせるとともに、道徳的価値の理解を深めようとする。展開についてのまとめるを行う。 「友達のよさ」について、自分との関わりで考えたい。 </td> </tr> <tr> <td>終末</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「ねらいに係る振り返りや交流を行う。 あなたは、「友達っていいな」と思ったことはありますか。また、それはどんな時ですか。(ノート等に記述させる) ※記述後、自由交流を行い、友達のよさについての気づきを積極的に伝えさせる。 ※必要に応じて教師による振り返りを行う。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	中心の発問・予想される子どもの反応	指導上の留意点(教師側)	導入	<ul style="list-style-type: none"> 「友達」という言葉から、思い浮かぶイメージについて話し合う。 「友達」はあなたにどんなことをしてくれる人かな? ・優しくしてくれる人、一緒に遊んでくれる人、楽しい気持ちにさせてくれる人、心配してくれる人。 今日の授業では「友達と仲よくすることのよさ」を考えたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お互い」する道徳的価値への方向付けをするときに児童の一面的な見方を引き出す。 児童から挙げたアイヌの事例を扱った後、ペアで話し合うように誘導する。 	展開	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読み、話し合う。 これらを読む中に、モチャロクという人とじゅうたろうという人が出てきます。2人がどのように仲よくしていったのかを考えながら読み進めよう。 モチャロクはどのような気持ちでじゅうたろうのさびしい心と生活を助けたのでしょうか。 一人ぼっちでかわいそうだな、食べる物は十分にあるのかな、アイヌの人たちの生活がどんなか、なぜモチャロクの家だけが残っていたのでしょうか。 じゅうたろうが、悪い人ではないと知っていたか。 じゅうたろうが来ることを待っていたのではない。 結太郎から許しをあげた理由を考えたのではない。 あなたがモチャロクやじゅうたろうのような気持ちで「友達のために何かをあげたい」と思うことはありますか。またそれはどのような時ですか。 困っている友達を見て、何とかしてあげたいと思う時、友達と力を合わせて、がんばりたいと思う時。 	<ul style="list-style-type: none"> モチャロクとじゅうたろうのそれぞれの行動を多面的・多角的に考えている。 子ども同士の関わりを重視し、友情が生まれるよう配慮する。 困っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 支え合っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 友誼について多面的・多角的に考えさせるとともに、道徳的価値の理解を深めようとする。展開についてのまとめるを行う。 「友達のよさ」について、自分との関わりで考えたい。 	終末	<ul style="list-style-type: none"> 「ねらいに係る振り返りや交流を行う。 あなたは、「友達っていいな」と思ったことはありますか。また、それはどんな時ですか。(ノート等に記述させる) ※記述後、自由交流を行い、友達のよさについての気づきを積極的に伝えさせる。 ※必要に応じて教師による振り返りを行う。 	
学習活動	中心の発問・予想される子どもの反応	指導上の留意点(教師側)											
導入	<ul style="list-style-type: none"> 「友達」という言葉から、思い浮かぶイメージについて話し合う。 「友達」はあなたにどんなことをしてくれる人かな? ・優しくしてくれる人、一緒に遊んでくれる人、楽しい気持ちにさせてくれる人、心配してくれる人。 今日の授業では「友達と仲よくすることのよさ」を考えたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お互い」する道徳的価値への方向付けをするときに児童の一面的な見方を引き出す。 児童から挙げたアイヌの事例を扱った後、ペアで話し合うように誘導する。 											
展開	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読み、話し合う。 これらを読む中に、モチャロクという人とじゅうたろうという人が出てきます。2人がどのように仲よくしていったのかを考えながら読み進めよう。 モチャロクはどのような気持ちでじゅうたろうのさびしい心と生活を助けたのでしょうか。 一人ぼっちでかわいそうだな、食べる物は十分にあるのかな、アイヌの人たちの生活がどんなか、なぜモチャロクの家だけが残っていたのでしょうか。 じゅうたろうが、悪い人ではないと知っていたか。 じゅうたろうが来ることを待っていたのではない。 結太郎から許しをあげた理由を考えたのではない。 あなたがモチャロクやじゅうたろうのような気持ちで「友達のために何かをあげたい」と思うことはありますか。またそれはどのような時ですか。 困っている友達を見て、何とかしてあげたいと思う時、友達と力を合わせて、がんばりたいと思う時。 	<ul style="list-style-type: none"> モチャロクとじゅうたろうのそれぞれの行動を多面的・多角的に考えている。 子ども同士の関わりを重視し、友情が生まれるよう配慮する。 困っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 支え合っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」についての、児童の多面的・多角的な気づきを引き出す。 友誼について多面的・多角的に考えさせるとともに、道徳的価値の理解を深めようとする。展開についてのまとめるを行う。 「友達のよさ」について、自分との関わりで考えたい。 											
終末	<ul style="list-style-type: none"> 「ねらいに係る振り返りや交流を行う。 あなたは、「友達っていいな」と思ったことはありますか。また、それはどんな時ですか。(ノート等に記述させる) ※記述後、自由交流を行い、友達のよさについての気づきを積極的に伝えさせる。 ※必要に応じて教師による振り返りを行う。 												

「ノートに記述させる」「ペアで交流する」など、児童生徒にどのように考えさせるのかを示しています。

児童生徒が多面的・多角的に考えることにつながる手立てを位置付けています。

1

十勝開拓の夜明けに結ばれたあつい友情 モチャロクとじゅうたろう

1 主 題 「なかよくしてたすけあう」【B-9 友情 信頼】

2 ねらい

モチャロクとじゅうたろうが互いの存在を認め、支え合って交流を深めた理由について考えることを通して、身近にいる友達と仲よくし、助け合う態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、アイヌの酋長モチャロクが、十勝開拓の先駆となった鈴木銃太郎に北国で生活する知恵や技術を教え、面倒を見るとともに、銃太郎もモチャロクをはじめとするアイヌの人々への感謝と尊敬の念を抱くなど、両者が生涯に渡って支え合って生きた姿を通して、身近にいる友達と一緒に仲よく生活したり、友達が困っているときに助け合ったりしようとする態度を育むことをねらいとしています。

前半では、単独越冬をした銃太郎を仲間として受け入れたモチャロクが、親身になって銃太郎の生活を支え、交流を深めた2人がお互いに心を通わせる姿について触れています。

後半では、銃太郎の仲間が起こした失火を広い心で許すモチャロクの姿と、アイヌの人々の困窮に自らを顧みず、救済に当たった銃太郎の姿について示されています。

指導に当たっては、自分と異なる他者を認め、信頼し、助け合う2人の友情に着目させるとともに、自身との関わりにおいて、友達と一緒に協力したり、助け合ったりしてよかったことを考えさせながら、友達と仲よくすることのよさについて考えを深めていくことが大切です。

4 展開例

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「友達」という言葉から、思いつくイメージについて話し合う。 ○ 「友達」はあなたにどんなことをしてくれる人かな？ <ul style="list-style-type: none"> ・優しくしてくれる人。 ・一緒に遊んでくれる人。 ・楽しい気持ちにさせてくれる人。 ・心配してくれる人。 ○ 今日の授業では「友達と仲よくすることのよさ」を考えていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをするとともに児童の一面的な見方を引き出す。 ・児童から挙げたイメージを板書した後、ペア交流を行うことで、活動が円滑に促されるようにする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材を読み、話し合う。 ○ これから読む話の中に、モチャロクという人とじゅうたろうという人が出てきます。2人がどのように仲よくしていったのかを考えながら聞きましょう。 ○ モチャロクはどのような気持ちでじゅうたろうのさびしい心と生活を助けたのでしょうか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ・一人ぼっちでかわいそう。 ・食べる物は十分にあるのかな。 ・北国の寒さに耐えられるのかな。 ◎ アイヌの人たちの倉庫が燃えたあと、なぜモチャロクの一家だけが残っていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・じゅうたろうが、悪い人ではないと知っていたから。 ・じゅうたろうが来ることを待っていたのではないか。 ・友達だから許してあげようと考えていたのではないか。 ○ あなたがモチャロクやじゅうたろうのような気持ちで「友達のために何かしてあげたい」と思うことはありますか。またそれはどのような時ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達を見て、何とかしてあげたいと思う時。 ・友達と力を合わせて、がんばりたいと思う時。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチャロクとじゅうたろうの写真を提示するなどし、教材への関心を喚起させる。 ・時代背景、アイヌ民族と和人の関わりについては説明を最小限に留める。 <p style="margin-top: 10px;">■ <u>モチャロクとじゅうたろうのそれぞれの行動を多面的・多角的に考えている。</u> (ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の聞き合いや議論が生まれるよう配慮する。 ・困っている相手のことを心配して助け合った2人が友情を深めていく姿から、「友達と仲よくすること」について、児童の多面的・多角的な思考につなげる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいに係る振り返りや交流を行う。 ○ あなたは、「友達っていいな」と思ったことはありますか。また、それはどんな時ですか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ※記述後、自由交流を行い、友達のよさについての気づきを積極的に伝えさせる。 ※必要に応じて教師による説話を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさについて再度見つけさせるとともに、道徳的実践の意識化を図れるよう、価値についてのまとめを行う。 ■ 「友達のよさ」について、自分との関わりで考えている。 (ノート・発言)

1 主 題 「自然を大切にすることを」【D-19 自然愛護】

2 ねらい

林豊洲が観光業に力を入れた理由について考えたり交流したりすることを通して、自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にしようとする判断力を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、十勝毎日新聞社初代社長である林豊洲が、開拓半ばであった十勝の開発を進めるため、然別湖周辺の国立公園編入を目指し、「十勝の開発と美しい自然の共存」という険しい道を選び奔走する姿に触れることを通して、自然や動植物を大切にしようとする判断力を育むことをねらいとしています。

前半では、十勝毎日新聞社社長の菅野光民との出会いや、林豊洲が十勝の発展に思いを馳せるまでの過程について触れています。

後半では、十勝の開発を進めるため観光業に力を入れて取り組む姿とともに、国から国立公園の指定を受けるまで奔走する姿について示しています。

指導に当たっては、然別湖周辺の美しさに感動し、観光業に力を入れつつ自然との共存を選んだ林豊洲の思いを理解するとともに、自分との関わりにおいて、自然を守ろうとする思いの原動力や自己の生き方について考えを深めていくことが重要です。

4 展開例

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自然を大切にすること」について話し合う。 ○ 自然を大切にすることは、どういうことでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを自然の中に捨てないこと。 ・むやみに木を切らないこと。 ○ 今日の授業では、「自然を大切にすること」について考えていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとともに、児童の片面的な見方を引き出せるように関わる。 ※現時点で、考えをもてなくてもよいこととする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材を読み、話し合う。 ○ これから読むお話に出てくる林豊洲は、自然をとっても大切にした人です。なぜ、豊洲は、自然を大切にしようと思えたのか、理由を考えながら読みましょう。 ○ なぜ、豊洲は自然を大切にしようと思えたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・十勝の自然がとてきれいだっただから。 ・もともと、自然が大好きな人だったから。 ◎ なぜ、豊洲は、観光業に力を入れたいと考えたのでしょうか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ・十勝の美しい自然を知ってもらいたかったから。 ・観光客に十勝を知ってもらおうことが、自然を守ることにつながると考えたから。 ○ 豊洲の、自然を大切にしようとする「思いのもと」は何なのでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然の美しさだと思う ・自然を大切にすることだと思う ○ 今まで、自然を大切にしようと考えたことはありますか。なぜ、そう思いましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・森が伐採されているニュースを見て、自分でも何かできることはないかと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊洲の挿絵を板書に位置付け、児童の教材への興味関心を高めるとともに、目的意識をもって教材を読めるようにする。 ・自然を大切にしようとする人間理解を発端として、価値理解へとつなげられるよう関わる。 ■ 豊洲が十勝の開発と自然との共存を選んだ理由について、教材の記述で閉じるのではなく、<u>多面的・多角的な視点で考えている。</u> (ノート・発言) ・自然を大切にすることを自分との関わりで捉えさせ、ねらいとする価値を考えさせる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいに係る振り返りや交流を行う。 ○ あなたの、自然を大切にしようとする「思いのもと」になっているものは何ですか。（ノート等に記述させる） ※記述後、自由交流させながら、今後、自分の「思いのもと」に付け加えられそうな考えについて交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的実践の意識化を図れるよう、価値についての整理やまとめを行う。 ■ 自然を大切にすること「思いのもと」について、<u>自分との関わりで考えている。</u>

1 主 題 「人間として生きる喜びを感じて」【D-22 よりよく生きる喜び】

2 ねらい

関寛齋が陸別の開拓を志した理由を考えることを通して、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる心情を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、陸別の開拓における中心人物となった関寛齋が、それまで行ってきた医者としての自分に限界を感じた理由を考えるとともに、寛齋の弱さを乗り越えて進む生き方に触れる活動を通して、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる心情を育てることをねらいとしています。

前半では、関寛齋が医者としての自分に限界を感じ、陸別の開拓を志す経緯が描かれています。後半では、最愛の妻の死から自らを奮い立たせ、目指す生き方を見つめ直す姿が描かれています。

指導に当たっては、寛齋の生き方や友達との交流を通して、自分だけが弱いのではないということや、人間がもつ強さ、気高さについて理解できるようにすることで、夢や希望など喜びのある生き方の素晴らしさに気付けるようにすることが大切です。

4 展開例

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● 諦めたり後悔したりした経験について話し合う。 ○ みなさんは、何かに取り組んで諦めてしまったり、後悔したりしたことはありますか？ <ul style="list-style-type: none"> ・毎日運動しようと思ったけれど、続かなかった。 ・友達との約束が守れず、後悔したことがある。 ○ 今日の授業では、「なりたい自分を目指すこと」について考えてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験談や、諦めたり後悔したりした時の気持ちに触れることを通して、理想と現実とのギャップに目を向けさせながら、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材を読み、話し合う。 ○ これから読む話は、陸別を開拓した関寛齋という人の話です。寛齋が人生の中で大切にしていたことは何かを考えながら聞きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・人のために何かをすること（命を救おうとすること）を大切にしていたと思う。 ・自分の理想を実現することだと思う。 ◎ そのような寛齋が、なぜ、医者としての自分に限界を感じたのでしょうか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ・貧富の差は、寛齋にはどうしようもなかった。 ・医者であっても、救えない命があると知ってしまった。 ○ 寛齋は、陸別に渡ったことを、全く後悔しなかったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・奥さんを大切にしていたから、後悔したと思う。 ・辛い開墾作業が続いて、諦めかけたかもしれない。 ○ そのような寛齋に、最後まで開拓を続けさせたものは、何だったのでしょか。 <ul style="list-style-type: none"> ・人を救おうとする気持ち。 ・人々の喜ぶ姿。その姿を見ると、自分も幸せになる。 ○ あなたにとって、「なりたい自分」とは、どのようなものですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・寛齋のように、誰かのために何かをできる自分。 ・自分のやろうと決めたことは最後までできる自分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む目的をもたせたり資料等を掲示したりすることで、教材への興味関心を高める。 ・寛齋が生きる上で大切にしていた思いを交流させ、板書で整理する。 ・理想とする姿と現実の姿との乖離への「寛齋の苦しみ」に寄り添えるよう促す。 ■ 寛齋の後悔の念と、開拓を志した思いとの葛藤について、多角的・多面的な視点で考えている。（ノート・発言） ・「湧き上がる何か」を取り上げながら、葛藤しながらも、よりよい生き方を目指そうとした寛齋について、多面的・多角的な視点で考えられるよう促す。 ・教材から離れ、主題について自己との関わりで考えられるよう促す。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいに係る振り返りや交流を行う。 ○ なりたい自分を目指す時に、あなたは何を大切に生きていきようと思いますか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ※記述後、自由交流させ、必要に応じて教師による説話をを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的実践の意識化を図れるよう、価値についての整理やまとめを行う。 ■ よりよい生き方について、自分との関わりで考えている。

1 主 題 「生きることは」【D-22 よりよく生きる喜び】

2 ねらい

神田日勝が農民であり画家であることを生涯に渡って問い続けたことについて考えたり交流したりすることを通して、生きることは何かを追究し、自分らしく生きようとする心情を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、開拓農民として厳しい開墾生活や度重なる冷害に苦しみながらも、絵を描くことを追求し、自分らしく生きることを模索する姿に触れることを通して、自分にとっての生きることの意味を考え、自分らしく生きようとする態度を育むことをねらいとしています。

前半では、大らかに育った幼少期や兄の手ほどきで始めた油彩画、日勝にとっての馬の存在について触れています。

後半では、画家として少しずつ認められるようになった一方で、自分の描きたい絵ではなく世間に認められる絵を描こうとしたり、生活のために画業に専念することができずに農民と画家のどちらでもない中途半端な存在であることに葛藤したりする姿について触れています。

指導に当たっては、日勝の苦しい生活の中においても「絵を描きたい」と内から溢れ出る気持ちを理解するとともに、自分との関わりにおいて、よりよい生き方や、自分らしく生きることについて考えを深めていくことが重要です。

4 展開例

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境や立場などを考慮して行動した経験について話し合う。 ○ 中学生になって、本当の自分を押さえて行動した経験はありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校では整理整頓する ・先輩としての行動 ○ 今日の授業では自分らしく生きることは何かを考えていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとともに、生徒に自分の考えと異なる行動をする理由について考えさせるように関わる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材を読み、話し合う。 ○ 今日は神田日勝の話です。馬の絵は知っているけれど、どんな人物かは知らない人が多いと思います。彼が人生で大切にしていたことに注目して読んでみましょう。 ○ 日勝が一番大切にしていたものは何ですか。理由は。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くこと ・身近なもの（馬など） ・家族 ・農家でもあること ・自分らしく生きる ◎ なぜ、日勝は、農民であり、画家であることに葛藤したのでしょうか。（ノート等に記述させる） <ul style="list-style-type: none"> ・どっちつかずだから ・やりたいことと、生きるために必要なことが違うから ○ あなたは生きる上でどのようなことを大切にしていきたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い ・生きがい ・人を思いやること ・すぐに諦めない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「馬」の挿絵を板書に位置付け、生徒の教材への興味関心を高める。 ・「大切にしていたもの」を板書し、日勝の生きることへの葛藤の理解につなげる。 ■ 農民であること、画家であることについて、「生きること」という視点で多面的・多角的に考えている。 (ノート・発言) ・「生きること」を軸に農民と画家を対比して板書し、生徒の多面的・多角的な思考につなげる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいに係る振り返りや交流を行う。 ○ あなたにとって、どのように生きることが「よりよく生きる」ことでしょうか。 ※記述後、自由交流させ、必要に応じて教師による説話を 行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的実践の意識化を図れるよう、価値についての整理やまとめを行う。 ■ 「生きること」について、自分との関わりで考えている。

【編集委員】

森田 靖史（十勝教育局教育支援課長）

山田 圭介（十勝教育局教育支援課義務教育指導班主査）

児玉 祥洋（十勝教育局教育支援課義務教育指導班主任指導主事）

奥田 裕幸（十勝教育局教育支援課義務教育指導班主任指導主事）

木挽ひろみ（十勝教育局教育支援課義務教育指導班指導主事）

佐藤 淳一（十勝教育局教育支援課義務教育指導班指導主事）

齋 慎之（十勝教育局教育支援課義務教育指導班指導主事）

國木 勇輔（十勝教育局教育支援課義務教育指導班指導主事）



道德教育地域教材

野十勝一統

指導資料編

令和3年7月発行

〒080-8588 帯広市東3条南3丁目

北海道教育庁十勝教育局教育支援課

TEL 0155-26-9241

FAX 0155-23-5320

URL : www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tky/index.htm